DR-735 のメモリー登録方法とバンク運用方法

ＤＲ－７３５は、チャンネル番号にこだわらなければ、MWキーを長押しするだけでメモリー番号の小さい順に自動的に登録できますが、ここでは例を４つ挙げて、ワンランク上のメモリー運用をする方法をご紹介します。これらの操作を練習した後、メモリーリセット（右Ｖ／Ｍキーを押しながら電源を入れる）をすれば書き込んだメモリーは全部消えます。但し液晶表示色設定の前にこの練習をしておかないと、液晶表示色設定まで消えてしまうのでご注意ください。

【例１：145.080MHz と 145.100MHz を共通メモリーch.0 と ch1 にメモリー登録する】

※ 自分で決めたメモリーチャンネル番号に登録する方法です。

① ＶＦＯモード（ダイヤルを回すと数字が 20KHz ずつ上下するモード）で、ダイヤルを回して１４５．０８０に合わせる。ＦＵＮＣキーを押す。

【参考】数字を 20KHz ずつではなく、例えばユティリティ受信帯の初期値 148.010,030,050…のステップを、148.010, 020, 030…のように 10KHz ずつ増やしたいときは取扱説明書　Ｐ．２２の「ステップの設定」をお読みの上、Ｐ．２３の「ステップ変更の例」に照らして操作します。但し、すべての帯域で 10KHz が適用されるので、メモリーが済んだらステップの値はＡＵＴＯに戻すことをおすすめします。

② １４５．０８０に合わせたほう（ここでは左）のダイヤルを回して０００を選ぶ。点滅していれば未使用、点灯していればすでに何かメモリーされている。いずれの場合でもＶ／Ｍキーを押すとビープ音が鳴り、０００が消え、登録が完了する。
（上書きできないときはＰ．４５、メモリー保護を参照）

③　ダイヤルを回して１４５．１００にする。ＦＵＮＣキーを押して３ケタの数字が出たらダイヤルを回して００１を選び、Ｖ／Ｍキーを押す。

書き込みができました。左右どちらでも、運用したい側のＶ／Ｍキーを押すごとにＶＦＯとメモリーモードが切り替わり、ダイヤルを回すごとに０００と００１が選べます。

【例２：145.080MHz～145.160MHz を 20KHz ステップで共通メモリーch.0~ch4 に、433.100～433.160MHz を 20KHz ステップで共通メモリーch.5~ch8 に登録する】

※　次の章で説明する、バンクの使い方の練習のためにいくつかメモリーを書きます。上記例１の復習でもあります。

①　例１を参考にして、ダイヤルを回して数字を合わせ、ＦＵＮＣキーを押して３ケタの数字が出たらダイヤルを回して登録するチャンネル番号を選び、Ｖ／Ｍキーを押すことを繰り返し 145.080 は 000,145.100 は 001、145.120 は 002…となるように 004 までＶＨＦ側をプログラムする。

②　バンドを 430MHz にして、ＶＦＯモードでダイヤルを回して 433.100 を選ぶ。①の動作と同様に操作を順に繰り返し、433.100 は 005,433.120 は 006…となるように 008 までＵＨＦ側をプログラムする。

書き込みができました。運用したい側のＶ／Ｍキーを押すごとにＶＦＯとメモリーモードが切り替わり、ダイヤルを回すごとに０００から００８が選べます。

【例３：例２で登録したメモリーチャンネルを、ＶＨＦチャンネルはメモリーバンク１に、ＵＨＦチャンネルはメモリーバンク２に登録する】☞　説明書Ｐ．３１、メモリーバンク機能

※　共通メモリーチャンネルをバンクに振り分けて使いやすくします。バンク、とはメモリーチャンネルをグループ分けして収納できる、引き出しのようなものです。

①　右でも左でも、バンク運用したい方の V/M キーを押してメモリーモードにする。

②　再度、同じＶ／Ｍキーを長押しするとＢＮＫ　ＡＬが表示される。ＢＮＫ ＡＬが出ているほうのダイヤルを回してＢＮＫ０１を選ぶ。

③　反対側のダイヤルを回して１４５．０８０、０００を選ぶ。そのダイヤルを長押しする。点滅が止まる。間違えたときはダイヤル長押しすれば点滅になる。

④　同じダイヤルを回して００１（１４５．１００MHｚ）を選び、それを長押しして００１を点灯させる。同じダイヤルを回して００２（１４５．１２０MHｚ）を選び、それを長押しして００２を点灯させる。これを繰り返して 004 までをＢＮＫ０１に登録する。

⑤ 同じダイヤルを回して００５（４３３．１００MHｚ）を選び、反対のダイヤルを回してBNK０２を表示させる。４３３．１００，００５が出ている側のダイヤルを長押しして００５を点灯させる。

⑥ 同じダイヤルを回して００６（４３３．１２０MHｚ）を選び、それを長押しして００６を点灯させる。これを繰り返して008までをBNK０２に登録する。

・この状態で何かキーを押せば、ビープ音が鳴り、BNK０２が消えます。メモリーモード側で、UHF帯のみのメモリーが表示される状態（バンク２）で運用できます。
・VHFメモリーだけを運用するときは、メモリーモードのときにV／Mキーを長押ししてBNK０２を表示させ、BNKと表示が出ている側のダイヤルを回してメモリーバンク０１（BNK０１）を選び、何かキーを押します。メモリーモードにすると０００から００４チャンネルだけが使えるようになっています。
・８ｃｈすべてのメモリーを使うときはメモリーモードにして、その側のV／Mキーを長押しして、BNKが表示されたほうのダイヤルを回してBNK ALを選び、何かキーを押します。ビープ音が鳴り、すべてのメモリーチャンネルで運用ができます。
・どちら側のV／Mキーを長押ししてバンク番号を選ぶかで、右側はバンク０２、左側はバンク０１、のような運用もできます。
【参考】
それぞれのバンク内でのメモリーチャンネルは、共通メモリーの番号順に並びます。

【例４】: 同じメモリーチャンネルを右でも左でも呼び出せるのは紛らわしい。VHFチャンネルは常に左側、UHFチャンネルは常に右側で使いたい。１４５．０２０MHｚを左側専用メモリーL００に、４３３．０２０MHｚを右側専用メモリーR００に登録する。

※ 左右それぞれ１００チャンネルまでメモリーできます。左右どちらにもすべてのバンドの周波数を登録できるので、例えば左はV／UHFアマチュア無線周波数、右はエアバンドや業務無線などの受信専用周波数をプログラムする、というような使い方ができます。

① Ｈ／Ｌキーを長押しして、キーロックする。鍵のアイコンが出たらすぐ、同じキーを５回続けて素早く押す。キーロックが解除され、ビープ音が鳴って、星のアイコンが表示される。（上級セットモードに入れる。☞　Ｐ．４８）

② ＦＵＮＣキーを長押しして、セットモードに入る。左右のダイヤルを押して、メニュー３３を選ぶ。MEMORY と、初期状態ならＣＯＭＭＯＮが表示される。右側のダイヤルを回してＬ／Ｒを選ぶ。

③ ＦＵＮＣキーを押してＶＦＯモードに戻り、左のボリュームツマミを押して、左をＭＡＩＮにする。左側のダイヤルを回して１４５．０２０MHｚに合わせる。
【注意】メイン側の周波数をメモリーするので、必ずMＡＩＮアイコンが登録したい側の位置にあることを確認してください。

④ 　ＦＵＮＣキーを押し、左側のダイヤルを回してＬ００を選ぶ。左側のＶ／Ｍキーを押すとビープ音が鳴り、Ｌ００が消える。

⑤ 右側のボリュームツマミを押し、右側をメインにする。右側ダイヤルで４３３．０２０ＭＨｚに合わせる。

⑥ ＦＵＮＣキーを押し、右側のダイヤルを回して r00 を選ぶ。右側のＶ／Ｍキーを押すとビープ音が鳴り、r00 が消える。

⑦ 操作したい側のＶ／Ｍキーを押してメモリーモードに入る。Ｌ００やｒ００が表示される。

【参考】

・共通とＬ／Ｒチャンネルにメモリーを書き分けておき、セットモード３３でメモリーチャンネルモードを切り替えると、好きな方を使えるようになります。モードを切り替えても、それぞれのチャンネルは保持されています。

・①の操作を繰り返すと、変更したパラメータを保持したまま上級セットモードは隠すことができます。メモリーチャンネルモードをひんぱんに切り替えたい場合は、ショートカットキー（★キー）にメニュー３３を割り当てておくと便利です。☞Ｐ．６０

以上